

2021年度 事業計画

〈法人目的〉 キリスト教の精神に基づき、あらゆる人々が自分らしく生きることのできる
平和な社会の実現をめざす。

I 保育事業（第二種社会福祉事業）

<保育理念>

キリスト教の精神に基づいた保育の中で、乳幼児の育成に励み、一人ひとりの子どもが未来社会の良き担い手となるようにはぐくみ育てる。

1. 大宮保育園

(1) 認可定員・利用定員・職員数

- ・認可定員 180名
- ・利用定員 150名
- ・一時預かり事業定員 3名（満1歳～就学前児童）
- ・職員数 40名（園長1名、保育士28名／常勤20名・非常勤8名、調理員6名／常勤3名・非常勤3名、看護師／常勤1名、事務員2名／常勤1名・非常勤1名、保育補助／非常勤2名）

(2) 保育目標

どの子ども一人ひとり神さまから託されたかけがえのない子どもたち。

子どものありのままの姿を受け入れ、以下のような姿を目標に、本園の保育課程にそって保育する。

- ・どんな小さなことにも感謝することのできる子ども
- ・すべての命を大切にすること
- ・あそびも学びも根気よく集中できる子ども
- ・表現豊かな子ども
- ・仲間を大切に、地域のなかでともに育ちあう子ども

(3) 年間保育目標

「共に喜んで」とのキリスト教保育連盟の年主題を園の年間目標として掲げ、大切にしたいことを職員間で共有する。

(4) 保育内容

新型コロナウイルス感染症対応をふりかえり、創意工夫しながら子どもたちの体験を保障する。

- ①乳児保育…育児担当制に学びつつ一人ひとりを尊重した丁寧な声かけを行い、ゆったりとした雰囲気の中で保育する。
- ②幼児保育…異年齢保育（たてわり）を基盤に、遊びと生活を通して人間関係をはぐくむ。目に見えない心の育ちを大切に活動や行事を行う。発達、課題に応じて年齢別クラス（よこわり）の活動を取り入れる。
- ③子どもの人権、特別支援保育、保護者支援等への理解を深め、チームで課題にあたるよう縦横で連携する。

(5) その他の取り組み

- ①地域と協働した子育て支援活動
- ②地域の小学校との子ども・職員間の交流
- ③地域の人たちとのふれあい、高齢者の方々との交流
- ④危機管理体制を充実させ、積極的に苦情処理、防犯、防災訓練に取り組む

- ⑤行政・地域と協働しつつ児童虐待防止、DV予防に取り組む
- ⑥職員の資質の向上をめざした研修や、職員会議を充実させる
- ⑦サービスの質の向上に向けて、ヒヤリハットや事故報告書などを検討し、再発防止に取り組む
- ⑧実習生、インターシップ、ボランティアを積極的に受け入れる

2. こひつじほーむ（小規模保育事業）

（1）認可定員・利用定員・職員

- ・認可定員 12名
- ・利用定員 12名（0歳～2歳児各4名）
- ・職員数 9名（園長1名、保育士7名／常勤4名・非常勤5名）

（2）保育目標

子どもをありのままに受け入れ、一人ひとりの心に寄り添い丁寧に関わる中で、以下のような姿を目標に保育する。

- ・まわりの大人の見守りや援助の中で、安心して身のまわりのことを自分でしようとする
- ・生活の中や命のある物に触れ合う中で、全ての物を大切にできる心が育まれる
- ・まわりの大人や友達との信頼関係の中で、自分の思いを素直に言葉や身体で表現できる
- ・やってみたい思いを受け止めてもらいながら、興味を持つことに意欲的に取り組もうとする

（3）年間保育目標

「共に喜んで」 ～ やってみよう かんじてみよう ～

（4）保育内容

コロナ禍の中で工夫をしながら小規模保育事業所の役割を確認しつつ日々の保育に務める。

- ・小さい集団の中で家庭的な保育を行う。
- ・親元から離れて初めて出会う大人に十分に受け入れられ、信頼できる大人との出会いのなかで愛され、のびのびと過ごす。（育児担当制の実践）
- ・日々の安定した生活の流れの中で見通しを持ち、安心して過ごす。
- ・スキンシップ、あやし、受容と共感などで満たされた関わりの中で過ごす。（心の育ち）
- ・四季折々の自然に触れて遊ぶ中で五感を育む。
- ・保護者、地域の方、職員が繋がりあい、子どもの成長を見守る中で一人一人の自己肯定感を育む。

（5）その他の取り組み

①保護者支援（新型コロナウイルス感染症の様子を見ながら対応・実施）

- ・おはなし会 月1回、保護者と子ども達が一緒に楽しく過ごせる交流の場を提供する。
- ・こひつじカフェ 保護者同士がゆっくりとお茶を飲みながら交流できる場の提供に取り組む。
- ・保育参加 子ども達の生活の様子・子ども同士や保育士との関わりを知り、子ども達の成長発達に気づききっかけ作りを目的として、一日の生活を共に過ごす。
- ・パパ会 父親の保育協力が多く、父親同士の交流の場を提供する。

②地域住民との交わりを積極的に取り組む。（近くの保育施設・教会・商店街のお店 など）

- ・公園に遊びに来ている親子（乳児）との交流の場を作っていく。（地域の子育て支援）

③危機管理体制の充実をめざし、苦情処理、防犯、防災訓練に力を入れる。

④行政・地域と協働しつつ児童虐待・DV予防に取り組む。

⑤職員の資質の向上をめざした研修や職員会議を充実させる。

⑥ヒヤリハットや事故報告書などの検討に工夫を行い、再発防止やサービスの質の向上につなげる。

II シャロン千里

- 《基本方針》
- ・ 「いのちの尊厳」が守られるケアに力を注ぐ
 - ・ サービスの質の向上に努める
 - ・ 社会貢献事業に取り組む
 - ・ 経営の安定性をめざす

1. ケアハウス（軽費老人ホーム）

入居者同士が共同生活を穏やかに送れるよう、一人ひとりの声に耳を傾け、また心身ともに健康に生活できるよう予防の視点を重視した環境作りを目指す。家族や関係者へ、入居者の状況を的確に伝え共有することにより、入居者が安心して暮らすことができる施設作りに取り組む。

- ① 定員 50名
- ② 自立支援 ・入居者の自主性を尊重し、自立支援、自己決定が出来る環境作りに努める。
- ③ 生活の充実 ・入居者が個々に発信する情報を迅速にとらえ、多様化するニーズに合わせた支援に取り組むことで、一人ひとりの生活の充実を支援する。
- ④ 職員の質の向上 ・入居者一人ひとりが尊重され自分らしい快適な生活を送れるよう、人権擁護に関する職員の意識を高め、定期的な内部研修や外部研修を活用し、職員の質の向上に努める。

2. 介護保険事業

(1) デイサービスセンター（通所介護・介護予防通所介護）

時間に余裕を持ったプログラム、利用者と職員が共存できる環境づくりを心掛けて利用者がゆったりと安心して楽しめるように努める。通信機器を利用した体操やカラオケなどを使用して魅力的なサービス提供とともに、活動内容をホームページやデイサービス通信等を通して多くの方々に伝え、更なる利用者の増員を目指す。

- ◆目標 ・一日平均利用者数 20名（定員 25名）

(2) ヘルパーステーション（訪問介護・介護予防訪問介護）

4月から介護予防・日常生活支援総合事業が1回算定報酬に変更される。適切に情報収集し混乱のない様に対応する。自信を持って身体サービスができるよう、サービス提供責任者が同行をもって個別対応で身体サービス技術の向上を目指す。

新型コロナウイルス拡大防止のため集合研修は自粛方向とし、今後の研修はリモートで行っていく予定。

(3) ケアプランセンター

近隣地域は核家族化が進み、要介護高齢者二世帯、独居認知症高齢者、老々介護世帯が多く、加えてコロナ禍における「孤立」「孤独」等多くの課題を抱えている。特定事業所として、地域包括支援センターや地域医療施設との連携を図りつつ、誰もが住み慣れた地域で安心して生活を送ることができるように支援を行う。また支援困難ケースについても積極的に対応を行なっていく。ターミナル期における支援を可能な限り受け入れ、本人・家族の気持ちに寄り添い、人生の最期の時まで自身が望む尊厳のある生活を送ることが出来るように支援を行う。

- ① サービスの質の向上への取り組み
 - ・ 介護支援専門員の担当件数を1人当たり35件とし、質の高いサービス提供に努める。
 - ・ 職員研修の充実を図る（認知症ケア、ターミナルケアを含む在宅医療 精神疾患、マネジメント技術等）
- ② 主任介護支援専門員としての取り組み
 - ・ 地域包括支援センターとの連携・地域のネットワーク作り
 - ・ 介護支援専門員実務者研修における見学実習の受け入れ
 - ・ 地域における他法人事業所共同での事例検討会の開催

(4) 介護サポート連絡会

- ① 職員研修の成果を各事業現場に活かせるように取り組む。
- ② 介護保険の改定に伴う情報交換と情報の共有を行う。

3. 受託事業（吹田市）

（1）留守家庭児童育成事業

子ども一人ひとりの声に耳を傾け思いに寄り添い、自分らしく安心して生活し遊ぶことができる居場所づくりを目指す。

子どもたちが協力して一つのことを成し遂げことで達成感が得られる行事を行い、子どもたちの学びと育ちを支援する。

（2）地域包括支援センター

昨年度に続き、各々の地域の特性に適した形での対応が求められると予測される。古江台青山台地域の特性として、個々の地区での活動はあるものの、地域連携の差が大きく横のつながりが薄いことが課題である。課題解決の一步として、地域住民と一緒に『コロナに負けず、地域を元気にするためのイベント』にとりくむことを目標とする。

（3）シルバーハウジング

日頃からのコミュニケーションを大切にし、詐欺被害などを未然に防げるように対応していく。

4. こども館（児童館）

こどもの健全育成と子育て支援を目的として、親子でいきいきリレーションシップを、昨年に引き続き受入れ人数を半数に制限して行う。

無料開放のオープンデイ、大宮保育園との交流活動「つみきとお話しの家」、夏休み・冬休みお楽しみプログラムについては、コロナ感染症の終息まで活動を中止する。

5. 介護職員初任者研修事業（旧ホームヘルパー養成講座）

受講期間を2ヶ月間とし、週1～2回の通学と自宅学習とする。広報については、ホームページからパソコンやスマホでも当研修が検索できる体制を整えた。また修了後、当施設に勤務する方には受講料の一部を補助する制度や大阪府の補助事業を活用して受講生の便宜を図り、受講意欲の増進と職員確保につなげる。

6・全 体

（1）職員数 60名（常勤18名、非常勤42名）

（2）食 事

安全で質の良い食材を確保し、入居者、利用者を楽しんでもらえる食事と食生活空間+を目指す。

（3）事故対応委員会

事故の事例報告・検討を通じて事故防止、再発防止を目指す。

- ①各部署での事故検討を深め、再発防止へとつなげる。
- ②職員研修にて緊急時の対応などシミュレーショントレーニングを行う。

（4）サービス品質向上委員会

アンケートを実施しサービス内容の見直しを行う。各部で苦情対応についての研修を実施し、サービスの質の向上を図る。

（5）社会貢献事業

経済的支援のみに留まらず、その人らしい自立にむけた支援が行えるよう大阪府社協の社会貢献支援員や吹田市内の他の施設と連携を密に対応していく。